

## ヒリュウ台温州ミカン「大津四号」の早期樹冠拡大法

[要約] ヒリュウ台温州ミカン「大津四号」の1年生苗を保水性の高い粒状培土により大苗育苗すると、新梢が長くなって樹高も高くなり、早期に樹冠拡大が図れる。また、苗植え付け後に黒ポリフィルムでマルチ処理し、春季せん定時には秋枝のみを切除する程度の弱い切り返しを行うと、樹冠の拡大が早まる。

担当部署	園芸研究所・果樹部・常緑果樹研究室		連絡先	092-922-4946	
対象作目	果 樹	専門項目	栽 培	成果分類	新技術

### [背景・ねらい]

温州ミカンのわい性台木ヒリュウは、従来のカラタチ台木に比べて省力化と高品質化が同時に図れる台木として注目されており、本県でも導入が進められている。しかし、ヒリュウ台を用いると苗の植傷みや幼木時からの着花・結実などにより初期の生育が抑制されやすく、生産性向上のためには未結実期間の幼木時にできるだけ樹冠の拡大を図った後に結実させることが必要である。そこで、ヒリュウ台「大津四号」について、大苗育苗や苗植え付け後の管理法が幼木の樹冠拡大に及ぼす影響を調査し、早期成園化のための技術確立を行う。

### [成果の内容・特徴]

- 1．ヒリュウ台「大津四号」の1年生苗を保水性の高い粒状培土により2年間ベッドで大苗育苗すると、マサ土で育苗した場合や当初から圃場に定植した場合に比べて新梢が長くなって樹高も高くなり、早期に樹冠の拡大が図れる(表1)。
- 2．苗植え付け後に黒ポリフィルムで土壌表面をマルチ処理すると、夏季の葉色が濃くなり、幹周が肥大して樹冠容積が大きくなる(表2)。
- 3．幼木の春季せん定時に秋枝のみを切除する切り返しを行うと、夏枝まで切除する強い切り返しに比べて新梢数と葉数が増加し、樹冠の拡大が早まる(表3)。

### [成果の活用面・留意点]

- 1．ヒリュウ台温州ミカンの幼木時の早期樹冠拡大のための技術資料として活用できる。
- 2．大苗育苗には、粒状培土などの保水性の高い土壌を用いる。

[ 具体的データ ]

表1 ヒリュウ台「大津四号」の大苗育苗が樹冠拡大に及ぼす影響（平成12年）

試験区	幹周 (cm)	樹高 (cm)	樹幅 (cm)		樹冠容積 (m <sup>3</sup> )	葉数 (枚/樹)	春枝長 (cm)	夏枝長 (cm)
			長径	短径				
粒状培土育苗	8.5a	181a	146a	111a	2.05a	1061a	19.4a	29.3a
マサ土育苗	7.3b	117b	134a	105a	1.15b	1129a	10.6b	21.2b
1年目定植	8.4a	127b	128a	110a	1.25b	1016a	12.3b	21.3b
	*	**	NS	NS	**	NS	**	**

- 注) 1. 粒状培土育苗区とマサ土育苗区は、ベッド（幅80cm×深さ30cm）で育苗  
 2. 粒状培土（筑後化成産業社製 赤土造粒品）は赤土と火山灰を混合して加工したもので、通常の赤土よりも1.5倍ほど保水性が高い  
 3. 平成11年3月に1年生苗を植え付け、平成12年秋季に調査  
 4. Tukeyの多重検定により、異文字間は5%水準で有意差あり

表2 ヒリュウ台「大津四号」の植え付け後のマルチ処理が樹冠拡大に及ぼす影響（平成11年）

処理	3月植え付け時		7月	11月				
	幹周 (cm)	樹高 (cm)	葉色 (SPAD値)	幹周 (cm)	樹高 (cm)	幹周 肥大率	樹高 伸長率	樹冠容積 (m <sup>3</sup> )
マルチ	3.1	57	67.6	4.4	101	1.42	1.77	0.29
無処理	3.0	56	56.9	3.9	101	1.30	1.80	0.14
	NS	NS	**	**	NS	**	NS	**

- 注) 1. マルチ処理は黒ポリフィルム(厚さ0.03mm)で植え付け時から土壌表面を被覆  
 2. t検定により、\*\*は1%水準で有意差あり

表3 ヒリュウ台「大津四号」幼木の切り返しせん定程度が樹冠拡大に及ぼす影響（平成12年）

切り返し程度	幹周 (cm)	樹高 (cm)	樹幅 (cm)		樹冠容積 (m <sup>3</sup> )	葉数 (枚/樹)	春枝数 (本/樹)	夏枝数 (本/樹)
			長径	短径				
夏枝切除	7.6	125	130	97	1.10	756	37.5	25.3
秋枝切除	9.4	135	161	130	1.98	1293	95.8	52.0
	**	NS	*	*	*	**	**	*

- 注) 1. 2年生樹の春季せん定時に切り返し処理を行い、秋季に樹の生育を調査  
 2. 夏枝切除区は樹内すべての夏秋枝を、秋枝切除区は秋枝のみを切除  
 3. t検定により、\*は5%水準、\*\*は1%水準で有意差あり

[ その他 ]

研究課題名：ヒリュウ台での早期成園化と栽培技術の確立  
 予算区分：国庫（地域基幹）  
 研究期間：平成12年度（平成11～15年）  
 研究担当者：矢羽田第二郎、松本和紀、堀江裕一郎